

論文審査の結果の要旨

平成 27 年 3 月 14 日

氏 名： 劉 雯

論文題目： 中国の大学教育のジェンダー分析：なぜ工学系分野に女性が少ないのか

これまで工学系分野を専攻する女性が少ない原因を「個人的興味の差」であるとする考え方が中国では一般的であった。国力と直接的に結びついている工学系の重要性ゆえに、その教育課題と実態を調査するために「工学教育と女性：現状、発展と前景」という調査が実施され、劉さんもその調査員として工業地域における 13 の工学系大学における 2 回の調査（アンケート調査とインタビュー調査）に参加しながら、大学入学以前の教育環境、家庭教育、専攻選択理由と学力や意欲、カリキュラムにおけるジェンダー差に焦点をあてて、本論文の考察を進めた。論文の内容は、極めて具体的な数値を調査データから呈示しつつ女子学生の自我認識、自己肯定感、伝統的ジェンダー文化（ステレオタイプ）の内面化、ロールモデルの欠如などから、たとえ成績の良い場合でも工学系を敬遠する傾向が見られることが明らかにされた。工学系分野へ進学する女性が少ない原因の究明および大学における工学教育カリキュラムをジェンダーの視点から分析することを目的として工学系大学教員へのインタビュー調査を行い、教員から見た女子学生と男子学生の違いや、学生と教員に女性が少ない事実は女性にとってストレスの多い社会環境であること、就職への有利、不利などについて極めて具体的言説を集めて分析することに成功している。日本においても大学教育を全ての年齢層に開放する方向が目指されている事を考えると、中国でも必ず迫り来る少子高齢社会に対応してジェンダーの視点からこの問題に取り組む必要性が説得力を増すと結論づけている。

副査の教員からは、極めて緻密な先行研究の吟味の上で、調査の結果を受けて考察が行われ、論理の展開においても十分な裏付けをもとに展開され、課題の原因と克服の可能性を見据えた博士論文として力作であると高く評価された。

口述試験では、まず論文の概要を説明した上で、審査委員よりの質問に答える形式をとった。すべての質問に対して、論理的で明瞭な返答がなされた。

大学教育は専門家を教育し、高度な職業人としての人材を輩出せねばならない上に、「女性が少なくても仕方がない」という社会通念の変容を起さねばならないが、女性をM字型就労とする通念や社会の制度や企業の文化的社会的構造に大学教育がどのように向き合っているかを明らかにせねばならないことが指摘された。また、リカレント教育を全ての世代、年齢にかかわらず展開せねば本当の 인재の発掘することにはならない。中学や高校のレベルで既に文系、理系に分けるといふ、全体的教育カリキュラムの見直しが必要であるが、大学レベルだけでは出来ないの、あらゆるレベルの教育と企業や共同体との連携

によって、意識の変革を起こして行く必要があるなど、今後の研究をどのように新しいテーマに発展させて行くかについても、しっかりとしたデータと証拠をあげて、教育の課題における〈通念〉に公然と問いかけをし続けて行く必要があり、具体的な政策提言として発展させるなど、このテーマに関する今後の研究展開にも大いに期待が寄せられることが明らかにされた。

平成27年3月5日、紀尾井町キャンパス1号棟において口述試験を行った結果、全ての審査員から合格と判定され、学位(比較文化)を授与するに相当の論文であると判断した。

主査：人文科学研究科 和智 綏子

副査：人文科学研究科 水田 宗子

副査：人文科学研究科 魚住 明代

副査：人文科学研究科 北田 幸恵